

## 「日本語学習ポートフォリオ（試作版）」の運用および使用実態

—自律的日本語学習が可能な環境の整備に向けて—<sup>(1)</sup>

A Pilot Project of the Japanese Language Portfolio:  
An Experimental Tool Designed for Autonomous Learning

黒田史彦（早稲田大学）・古賀和恵（同）・坂田麗子（同）・武一美（同）・古屋憲章（同）・  
柳田直美（同）・相浦裕希（早稲田大学大学院生）・山本由紀子（同）・横山愛子（同）

KURODA Fumihiko, KOGA Kazue, SAKATA Reiko, TAKE Kazumi, FURUYA Noriaki,  
YANAGIDA Naomi, AIURA Yuki, YAMAMOTO Yukiko, YOKOYAMA Aiko(Waseda University)

### 要 旨

日本語学習ポートフォリオを試験的に運用し、その使用の実態を分析した結果、次の四点が明らかになった。①多くのPDCAシートにおける学習目標・計画には、人生目標や言語能力に関してのみ記述されていた。②日本語学習日記には、学習の振り返りや自己評価が記述されていた。③「みんなのBBS」では、学習者同士が交流し、仲間意識が醸成されていた。④ポートフォリオの各機能の連動と作成のサポートが必要である。

The present study of a trial operation of the Japanese Language Portfolio draws the following conclusions about learners' usage of the Language Portfolio: 1) communicative activities are rarely chosen as learning goals/plans in PDCA Sheets; 2) the Learning Diary provides a key resource for information concerning students' reflections on the learning process, and self-assessments of their results; 3) Learners use BBSes to construct crucial associative networks between each other; and 4) in future, the three aspects of the Language Portfolio (PDCA Sheets, Learning Diary and BBS) must be further interlinked to form a cohesive whole. In order for students to achieve this, advisory services must be provided for them.

**【キーワード】** 自律的学習, 学習支援, 日本語学習ポートフォリオ, Webシステム

### 1. 研究の背景と目的

筆者らが所属する早稲田大学では、近年、留学生数が増加するとともに、留学生のタイプも多様化している。従来、留学生に対する日本語支援は、日本語の授業を提供するという形態で行われてきた。しかし、それだけでは、留学生の数の増加、質の多様化に対応し切れなくなっている。そのため、留学生が自律的に日本語を学習できる環境を整備するという形態での支援を検討することが喫緊の課題となっている。加えて、学内には学習者が学習目的に合わせて選択し、利用できる日本語のクラス・場所・機関・制度等のリソースが豊富に用意されているにもかかわらず、現場の教師に学習者が持ちかける相談内容からは、学習者がそれらのリソースを十分活用できていない実態が浮かび上がってきた。

そこで筆者らは、学習者と各種リソースをつなぎ、学習者の自律的な日本語学習を実現するための方策として、「日本語学習ポートフォリオ」（以下、「ポートフォリオ」）を構想した（小高他, 2010）。「ポートフォリオ」とは、「学習者が様々なリソースから得た様々な

日本語の学びを可視化し、蓄積するためのツール」(小高他, 2010)である<sup>(2)</sup>。

筆者らは、「ポートフォリオ」の構想にさらに検討を加え、構想実現の第一段階として、Web上に「日本語学習ポートフォリオ(試作版)」(以下、「試作版」)を構築した(黒田他, 2010)。

「試作版」は、留学生が日々の日本語学習・日本語使用に関する全般的・長期的な記録を継続的に蓄積し、蓄積した情報をもとに、自らの学習を振り返りつつ、新たな学習を主体的にデザインするためのシステムである。「試作版」には、早稲田大学においてすでに全学的に導入されている授業支援システムを活用することとした。

「試作版」は、日本語科目を履修していない学習者の利用も視野に入れ、授業に付随するのではなく、学習者が自律的に用いるシステムとした点に特徴がある。授業とは独立したポートフォリオシステムの開発は、日本語教育分野においてほとんど類例のない試みである。そのため、学習者にとっての使い勝手や、システムの有効性を検証する必要があった。そこで、「試作版」を自由に使ってもらい、意見を収集することを目的に、留学生を対象とする「試作版」モニター調査を実施した。そして、使用状況や収集した意見を分析することにより、「試作版」の使用実態を把握するとともに、システムの改善に向け、問題点の洗い出しを行った。本研究は、「試作版」の使用実態をモニター調査により明らかにする過程で浮上した問題点を踏まえ、今後の「ポートフォリオ」を構想することを目的とする。

## 2. 日本語学習ポートフォリオ(試作版)運用活動プロジェクト概要

### 2-1. 日本語学習ポートフォリオ(試作版)を構成する各コンテンツ

1章で述べた「試作版」は、主に次の三つのコンテンツで構成される。

#### 1) 日本語学習に関するPDCAシート(以下、PDCAシート)

PDCAシートは、日本語の学びにおけるPDCAサイクルの確立を目的とするシートである。PDCAとは、学習者自身の目標設定(Plan)、学習成果・活動記録の蓄積(Do)、目標に対しての達成度の自己評価(Check)、目標達成へ向けた改善(Act)の頭文字である。「試作版」を構成するPDCAシートでは、日本語学習に関するPDCAそれぞれの項目を、一枚のPDCAシートに記載することができる。

#### 2) 日本語学習日記

日本語学習日記は、単に日々の出来事を日本語で書くスペースではなく、日本語学習者が日々の日本語の学習・使用を記録するスペースである。過去の日記を閲覧したり、写真や文書を添付したりすることも可能である。また、お互いの日記を読んだり、他の学習者の日記にコメントを書いたりすることもできる。

#### 3) 「みんなのBBS」(以下BBS)

BBSは、学習者が各自の興味関心に合わせて話題やテーマを設定し、設定された話題やテーマに沿って、自由に書き込みができる電子掲示板である。学習者は、BBSをとおして、日本語の学習・使用に関する情報・意見を交換することができる。

筆者らは、学習者が多様なリソースから得た日本語の学びを可視化するためには、日々の日本語の学習・使用に関する記録を参照しながら、学習目標・学習計画、(学習計画の)達成度といった自身の日本語学習に関するメタレベルの記述を行うことが有効ではないかと考えた。そこで、日々の日本語の学習・使用を記録する日本語学習日記と自身の日本語学習に関するメタレベルの記述を行うPDCAシートを「試作版」を構成するコンテンツとし

た。また、学習者が日本語の学習・使用に関し、やりとりする場の存在が学習者の日本語学習への意欲を支えるであろうと考え、BBSを「試作版」を構成するコンテンツとした。

## 2-2. 日本語学習ポートフォリオ（試作版）モニター調査

「試作版」を自由に使ってもらい、意見を収集することを目的に、2010年6月25日～9月24日にモニター学生を対象とする「試作版」モニター調査を実施した。モニター学生は早稲田大学に在籍する留学生15名である。モニター学生は、早稲田大学に在籍する初中級レベル以上の留学生を対象に有償のアルバイトとして募集した。多様な留学生から幅広く「試作版」に関する意見を収集するため、募集にあたり、学生の所属は特定しなかった。その結果、モニター学生には、普段教室で日本語を学習している学生に加え、各学部・研究科に在籍するすでに日本語を用いて大学生活を送っている学生も多く含まれることとなった。モニター学生は、自ら募集に応じ、「試作版」モニター調査に参加した学生である。そのため、基本的に「試作版」を使用する意欲がある学生であったと推測される。

「試作版」モニター調査期間中は、個々のモニター学生に自宅等で随意に「試作版」を使用してもらった。そして、モニター学生を計5回（6/25, 7/2, 7/9, 7/16, 9/24）教室に集め、モニターセッションを行った。モニターセッションでは、担当者（筆者ら、以下同様）のファシリテートのもと、モニター学生間で「試作版」の使用に関する意見や情報を交換してもらった。初回（6/25）のモニターセッションにおいて、担当者から「試作版」の使用に関し、次のような説明を行った。

- 1) PDCAシートに、学習目標および学習計画（P）を記入する。
  - 学習目標は、長期的な目標でも、短期的な目標でもよい。
  - 学習目標ごとにPDCAシートを作成する。（複数枚作成することが可能）
  - 学習目標に即し、学習計画を記入する。
- 2) 学習目標および学習計画を念頭に置きながら、日本語学習日記に自らの日本語学習を（できれば毎日）記述する。
  - 日本語学習の成果物を日記に添付することもできる。
  - 日本語学習日記は相互に閲覧・コメントをすることができる。
- 3) （ある程度の期間、日本語学習日記への記述を続けた後）日本語学習日記に記述した内容を参考に、PDCAシートに学習内容（D）、達成度・達成内容（C）、今後の目標（A）を順次、記述していく。
  - 日本語学習の成果物をPDCAシートに添付することもできる。
  - PDCAシートは相互に閲覧・コメントすることができる。
- 4) BBSを利用し、お互いの日本語学習に関し、（テーマを決めて）情報交換や意見交換を行うことも可能である。テーマに応じ、新たにスレッド<sup>(3)</sup>を開設することができる。

「試作版」モニター調査において、担当者は、主に次の三つを行った。①モニターセッションにおけるファシリテーター役を務める。②モニターセッションでモニター学生から出された意見を記録する。③モニター学生からの「試作版」の使用に関する質問や要望に対応する。また、担当者は、上述した初回（6/25）のモニターセッションにおける説明を除き、モニター学生に対し「試作版」の使用に関する教示を行っていない。これは、教師のコントロール下ではなく、学習者が自身で「ポートフォリオ」を使用した際に、起こり

得る問題点を洗い出すことが「試作版」モニター調査の主な目的であったからである。

### 3. 分析と結果

#### 3-1. 分析の問い

「試作版」モニター調査期間終了後、PDCAシート、日本語学習日記、BBSの記述内容およびモニターセッションの記録を、モニター学生がどのように「試作版」を使用していたかという観点で分析した。

#### 3-2. PDCAシートの記述内容分析

モニター学生は、自らの日本語学習に関しどのように設計・実践・評価・記録を行っていたかという観点から、PDCAシートの記述内容を分析した。特にPDCAサイクルを展開していくための起点である学習目標・学習計画(P)に注目して分析した。分析の結果、モニター学生の目標・計画の立て方は、次の3タイプに分けられることがわかった。

##### ①「言語活動」<sup>(4)</sup>Plan型

「読む」「話す」などの産出・受容・やり取りにつながる言語活動に関する目標・計画が立てられているタイプ。

##### 事例1

日本語学習の目的	今学期の目標	学習計画
1. 日本の小説や資料を翻訳なしに読みたいから	2. 日本語で簡単な記事や漫画が気軽に読めるようになる。	*興味ある漫画や小説を読む。 *今日は日本語の小説を注文して、来週から読もうと思っています。頑張ります：(6/25 日本語学習日記)

このタイプの分析に際しては、記述内容を検討するための手掛かりとして、いわゆる能力記述文である「活動Can-do」を構成する四つの要素、すなわち、条件、話題・場面、対象、行動<sup>(5)</sup>を採用した。そして、どの要素が目標・計画に盛り込まれているかを分析し、目標・計画がどの程度細かく設定されているかを調べた。例えば、上述の事例を分析したところ、次のような結果が得られた。

条件： 翻訳なしに、気軽に  
話題・場面： ー  
対象： 小説、漫画、資料（簡単な記事）が  
行動： 読めるようになる。

同様の手順に従い、「言語活動」Plan型のPを分析した結果、大半の言語活動に関する目標・計画には、条件、話題・場面、対象、行動のうち、行動のみ、または対象と行動しか含まれていないことがわかった。

##### ②人生目標・「言語能力」<sup>(6)</sup>Plan型

就職や将来の生活などの人生設計に関わる大きな目標・計画に加え、「文法」「語彙」といった「言語能力」に関わる目標・計画が設定されている一方、「言語活動」に関する言及が欠けているタイプ。

##### 事例2

日本語学習の目的	今学期の目標	学習計画
・日本で一人暮らしをしたいから→他人に頼らず、自分の力でちゃんと生活したい!	1. 敬語が自由に使えるようになる。	・「敬語コミュニケーション6」の授業を受ける。 ・敬語を使って話す練習をする。

この事例では、「日本で一人暮らしをしたいから→他人に頼らず、自分の力でちゃんと生活したい!」という生活に関わる目標・計画と、「敬語が自由に使えるようになる」という「言語能力」に関する目標・計画との間に大きな飛躍があり、関連性を見出すのが困難である。

③「言語能力」Plan型

「言語活動」や人生に関する目標・計画が全く設定されておらず、「言語能力」に関する目標・計画のみが設定されているタイプ。

事例3

日本語学習の目的	今学期の目標	学習計画
漢字を自由に書くようになる。	前学期買っておいた本（漢字）をマスターする。	*前学期買って置きっぱなしの本「日本語学習のためのよく使う順漢字 2100」を計画を立てて覚える、勉強する。 *一日 30 語（その語の下に出ている例文や単語も含めて）ずつ覚えることにした。計画通りなら 9 週間後に完成できる。

ここでは、何のために漢字を学ぶかが示されておらず、「言語能力」の一部として位置づけられる「文字」「表記」に関係した「漢字を自由に書くようになる」という目標・計画のみが唐突に設定されている。

3-3. 日本語学習日記の記述内容分析

日本語学習日記の記述内容を「モニター学生は日本語学習日記に何を記述していたか」、「日本語学習日記の記述内容と PDCA シートの記述内容はどのように関連しているか」という観点で分析した。分析の結果、日本語学習日記の記述内容は次の四つに大別できることがわかった。

①日本語学習日記と PDCA シートが連動している

PDCA シートに具体的な学習目標・学習計画を描き、日本語学習日記には、その学習目標・学習計画のための行動を記述し、自らの日本語学習の振り返り、次の行動に向けての決意をつづっているタイプ。

事例4

日本語学習日記	PDCA シートの記述内容 <sup>(7)</sup>
<p><b>自己評価:</b> 日本語の授業を取っていないため、日本語の力が下がっているように感じる。友人と話すとき単語が出ないときがある。</p> <p><b>対策:</b> 日本語学校で使っていたニューアプローチの教科書を何度も読み直し、暗記する。</p> <p><b>意思表明:</b> 三日坊主にならないよう学習を続けていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な日本の大学生たちの話に完全に入り込めるようになる</li> <li>2010年12月5日日本語能力試験読解 160点取れるように。</li> <li>日本語能力試験 過去問題 2000~2009年すべての文が理解できるように。</li> </ul>

②PDCA シートで自分が立てた目標の実践の場として日本語学習の記録をつづっている

PDCA シートに書かれた学習目標・学習計画のための学習行動は記述しているが、振り返りや次の行動に向けての改善については書かれていないタイプ。

事例5

日本語学習日記	PDCA シートの記述内容
<p>九月十九日に台湾は台風の影響で雨で、風が強く吹きそうでした。南部地方を襲った台風 11 号に伴う集中豪雨のせいか大水が出た。また、産業の盛んな地域で、壊滅的な被害を受けた町工場などが数多くあるようだ。(原文のまま)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞くこと：ニュースをより正確に理解できるようになることを目指す。</li> <li>聞くこと：毎日ニュースとラジオを聞いて大きく内容を理解して要約する。</li> </ul>

③日本語学習に関する記録を書いているが PDCA シートとの関わりが見られない

日記本文には、自分が学習したことに関する日記をつづっているものの、PDCA シートに

書かれた学習目標・学習計画のための学習行動、振り返りや次の行動に向けての改善について書いているわけではないタイプ。

#### 事例6

日本語学習日記	PDCA シートの記述内容
授業の話題：レポートを書いた。テストのために単語を覚えた。単語を覚えるのは大変だが、役に立つと思う。 アルバイトの話題：バイト先の人と日本語で話し合う内容の準備をする。 意思表示：日本語能力試験に向けて勉強する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で働くためにはぜんぜんないです。私は卒業したらすぐ韓国に帰るつもりだけど日本に住んでたから日本語はもちろん上手になるべきだと思います。</li> <li>・日本語の友達と英語ではなくて日本語でべらべらしゃべれるほどのレベルになりたい。</li> <li>・自分の話したいことが日本語で話せるようになる。いまは頭の中でだけ浮かんでくる。それを口で言いたい。</li> </ul>

④日本語で日々の記録をつづっているだけでPDCAシートとの関わりが見られない

ブログのように、日ごろ起こった出来事が日本語でつづられており、PDCAシートで書いた内容と関連がない上に、日本語を学習しているという意識も見られないタイプ。

#### 事例7

日本語学習日記	PDCA シートの記述内容
<b>面接</b> ：昨日インターンシップの面接を受けた。就職関連の面接は初めてのため緊張したが、準備した通りに答えられた。報酬がないと思っていたが、バイト並みにもらえることを知り、うれしく思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院に行きたいから</li> <li>・週に1冊以上の本を読む。</li> <li>・日本人といっぱい話す。</li> <li>・日本のテレビをいっぱい見る。</li> <li>・学校の図書館を利用。移動時など、合間をできるだけ活用する。</li> <li>・授業にちゃんと行く。積極的に話しかける。</li> <li>・知らない言葉が出てきたら、ただちに辞書を引いてみる。なるべくNHKを見て、正しい発音を覚える。</li> </ul>

### 3-4. BBS の記述内容分析

BBS の記述内容を「モニター学生は何を意図し、何をBBSに記述したか」、また「モニター学生はBBSの記述内容にどのように反応したか」という観点で分析した。その結果、モニター学生の記述内容は、「情報提供」（例：学生会館の使い方を紹介）、「情報収集」（例：学生寮など住まいの情報提供へのモニター学生への呼びかけ）、「情報交換」（例：住まいに関する情報の交換）の三つに分類された。

また、BBSへの発言数・参加学生数を集計した結果、「情報交換」が最も活発に行われたスレッドは、「寮の日本語」「アルバイトの日本語」であった。しかし、そこで行われた「情報交換」は、留学生寮の費用、アルバイトの仕事内容等、学生生活そのものに関する情報の交換であり、「試作版」構想時に意図されていた日本語の学習・使用に関する意見・情報の交換ではなかった。

### 3-5. モニターセッション記録の分析

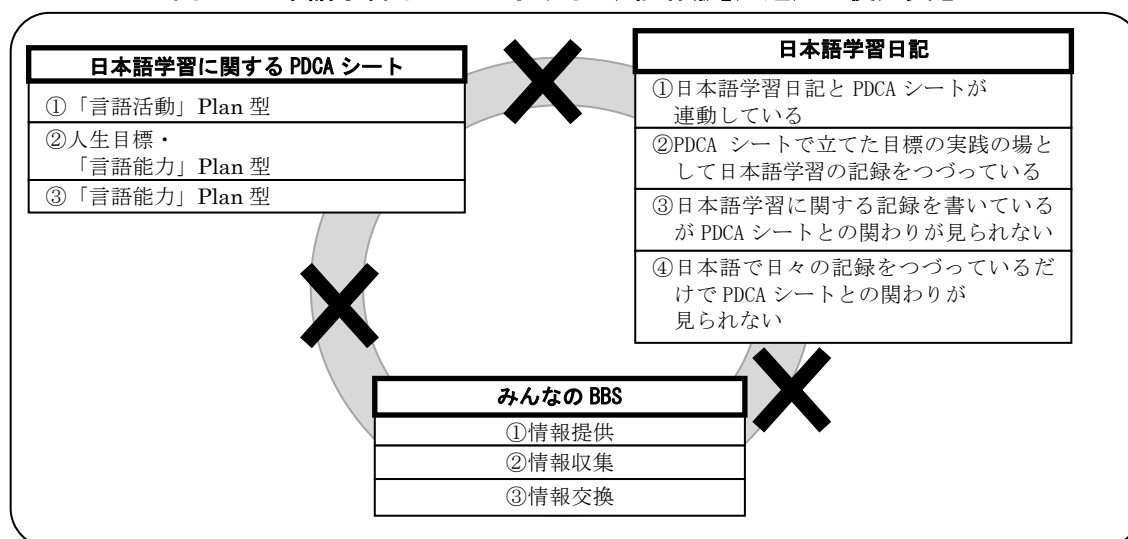
計5回行われたモニターセッションの記録を「モニター学生は、『試作版』をどのように意味付けていたか」という観点で分析した。分析の結果、モニター学生は「試作版」をそれぞれ次のように意味付けていたことが明らかになった。①PDCAシート、日本語学習日記を内省の場として意味付ける：「試作版」は、自身の日本語学習に関する行動・意識に変化を促したり、自身の日本語学習の振り返りに役立ったりする場である。②日本語学習日

記を日本語使用の場として意味付ける：「試作版」は、日本語を学習するためのツール（単語リスト作成スペースとしての使用等）であると同時に、日本語を使用せざるを得ない環境である。③BBSを人とのつながりの場として意味付ける：「試作版」は、モニター学生間で相互に交流したり、関係を作ったりすることをおして、仲間意識が醸成される場である。以上のように、モニター学生が「試作版」を①②③のように肯定的に意味付ける一方で、「試作版」モニター調査期間中、「試作版」の使用を負担に感じていたことも明らかになった。

### 3-6. 分析結果のまとめ

3-5 で記述したように、モニター学生は、「試作版」を①内省の場、②日本語使用の場、③人とのつながりの場として実感していた。しかし、このようなモニター学生の実感と「試作版」の使用実態は、次の図1に示すように、必ずしも一致していない。

図1 日本語学習ポートフォリオ（「試作版」）運用・使用実態



①内省の場は、主に PDCA シート、日本語学習日記を使用しての実感である。PDCA シートが内省の場となるためには、3-2 で示したように、条件、話題・場面、対象、行動という四つの要素を全て含む「言語活動」Plan 型の目標・計画が PDCA シートに記述される必要がある。なぜなら、条件、話題・場面、対象、行動という四つの要素を全て含む「言語活動」Plan 型の目標・計画は、学習者に「私はどのような条件のもと、どのような話題や場面で、どのような対象に対し、どのような言語行動ができたか」という詳細、かつ具体的な問いに基づく内省を促すからである。しかし、実際には、条件、話題・場面、対象、行動という四つの要素を全て含む「言語活動」Plan 型の目標・計画が記述された PDCA シートはほとんど見られなかった。また、日本語学習日記が内省の場となるためには、3-3 で示したように、日本語学習日記と PDCA シートが連動している必要がある。なぜなら、学習者は、PDCA シートに記述した目標・計画に即し、どのように日本語学習を行ったかに関する記録を蓄積するという行為をおして、自らの日本語の学習・使用を内省するからである。しかし、実際には、3-3 で示したように日本語学習日記に PDCA シートに記述した目標・計画に即した記録はあまり見られなかった。②日本語使用の場は、主に日本語学習日

記を使用しての実感である。「試作版」においては、日本語学習日記に限らず、日本語による記述が求められていた。そのため、モニター学生は、日本語による記述を常に意識せざるを得なかった。その「日本語を使用しなければならない」という意識が、「試作版」の使用を負担に感じる原因の一つになっていたと推測される。③人とのつながりの場合は、主にBBSを使用しての実感である。BBSが人とのつながりの場となるためには、3-4で示したよう、活発な「情報交換」が行なわれる必要がある。しかし、実際には、BBSで活発に「情報交換」が行われていたとは言い難い。

以上の分析結果のまとめから、次のような「試作版」の使用実態が明らかになった。モニター学生の実感は「試作版」の実際の使用状況と乖離している。確かに「試作版」の使用は、モニター学生に日本語学習における内省や人とのつながりの重要性を意識させた。しかし、モニター学生が内省や人とのつながりのために記述するまでには至っていなかった。その結果、「試作版」モニター調査の全期間をつうじて、「試作版」を構成するコンテンツであるPDCAシート、日本語学習日記、BBSが有機的に結び付くことはなかった。

#### 4. 考察および今後の課題と展望

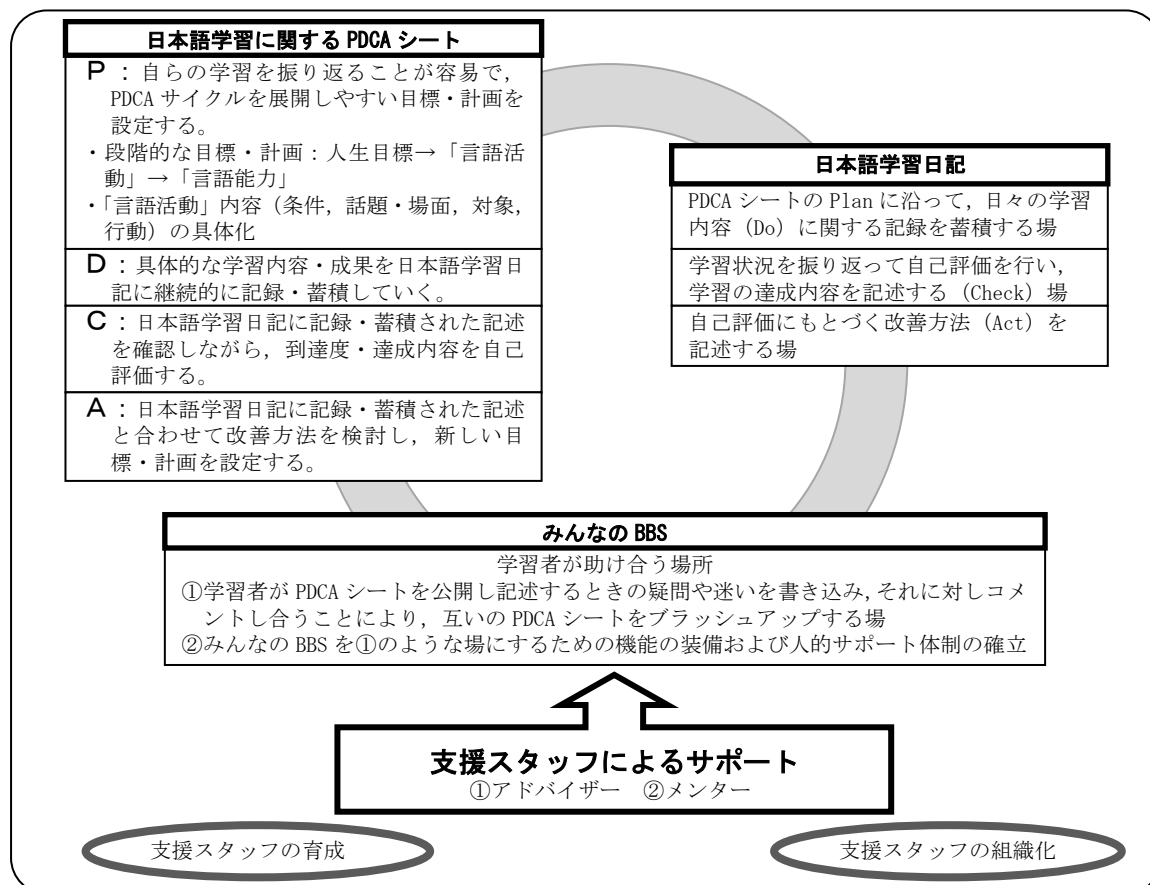
分析結果をもとに、今後の「ポートフォリオ」の構築に向け、どのような機能および運用が必要かに関し、考察した。その結果、次のような機能および運用が必要であることが示唆された。まず、「ポートフォリオ」が真に学習者個人の言語生活に根差すためには、Webサイトの構成を工夫することにより、日本語学習日記とPDCAシートを関連付ける必要がある。次に、学習者が「ポートフォリオ」を含む複数のリソースを自律的に選択・活用できるような環境を整える必要がある。更に、そのような環境を具現化するためには、自律的な学習を支援する、より具体的にはPDCAシートおよび日本語学習日記への記述を支援する支援スタッフの育成とその組織化が不可欠である。支援スタッフは、次のような役割を担う。「アドバイザー」が、学習者と相談しながら、長・中・短期的な学習目標を明確化し、学習計画、内容、方法、ペース、利用リソース、自己評価方法などを具体的に決める。「メンター」が、BBS上で、学習者が作成中のPDCAシートを公開し、記述内容に対しコメントし合うよう促す。以上の分析結果および考察を踏まえ、「ポートフォリオ」の運用・使用に関する構想を次ページの図2に示す。

図2は、日本語学習に関するPDCAシート、日本語学習日記、BBSが有機的に結び付いている状態を表す。学習者は、次の①②③のようにPDCAシートと日本語学習日記を連動させて用いることにより、日本語学習のPDCAを循環させられるようになる。①PDCAシートに条件、話題・場面、対象、行動という四つの要素を全て含む「言語活動」Plan型の目標・計画(P)を記述する。②記述した目標・計画に即し、日本語学習日記に学習内容(D)に関する記録を蓄積する。同時に、学習内容に関する記録を蓄積しながら気づいた学習の達成内容(C)、改善方法(A)に関しても記述する。③日本語学習日記に蓄積した学習内容に関する記録を確認しながら、PDCAシートに達成内容(C)、改善方法(A)を記述する。記述する際、日本語学習日記上の学習の達成内容(C)、改善方法(A)に関する記述も参照する。BBSは、PDCAシートと日本語学習日記の連動を促す機能を担う。具体的には、BBS上で、学習者が作成中のPDCAシートを公開し、記述内容に対しコメントし合うことにより、目標・計画の質を向上させると同時に、PDCAシートと日本語学習日記を連動させるという



意識を高めることが期待される。しかし、PDCAシートと日本語学習日記の連動を促す機能をBBSを用いたピア・サポートのみで担おうとする場合、非常な困難が予想される。そこで、支援スタッフ（アドバイザー・メンター）によるサポートにより、PDCAシートと日本語学習日記の連動を促す機能を強化する。

図2 日本語学習ポートフォリオ運用・使用構想



1章で述べたように、筆者らは、まず「ポートフォリオ」を構想した上で、構想実現の第一段階として、「試作版」を構築し、モニター学生を対象に運用した。「試作版」は、いまだ開発途上とはいえ、留学生の自律的な日本語学習を可能にする環境整備の根幹として、大きな可能性を持つ。早稲田大学では、現在、学習者の自律的な日本語学習および留学生生活における自己実現を可能とする修学環境を創造することを目的とし、「留学生支援システム」を構築中である。「留学生支援システム」において、「ポートフォリオ」は、自律的な日本語学習を促すために必要な装置である。そのため、今後は、本研究の結果として得られた「ポートフォリオ」の運用および使用構想をもとに、「留学生支援システム」の枠組みの中で効果的に運用できる「ポートフォリオ」の開発を目指す予定である。

注

- (1) 本稿は、早稲田大学日本語教育研究センター一般研究「日本語センター及び日研におけるポートフォリオ実施のための理論と実践」（2010年度重点研究）による研究助成の成果の一部である。

- (2) 「日本語学習ポートフォリオ」の詳細については、小高他(2010)を参照されたい。
- (3) モニター活動開始当初に開設されていたスレッドは、「サークルの日本語」「アルバイトの日本語」の二つであった。その後、モニター学生の要望に応じ、「日本語質問」「生活の日本語」「寮の日本語」「サークル」「旅行」「夏のイベント」「私のおすすめ」「雑談」といったスレッドを順次開設した。
- (4) 本稿における「言語活動」は、独立行政法人国際交流基金(2010a)が次のように規定する「コミュニケーション言語活動」に対応している。「言語能力を基盤として、木の枝のように広がりがあり、多様性があるものです。言語活動は、読んだり聞いたりする『受容』、話したり書いたりする『産出』、会話などを行う『やりとり』に分類できます。さらに、その3つをつなぐ役割を果たす『テキスト』や、それぞれの活動と能力をつなぐ『方略』があります」(p.9)。
- (5) 「条件：ゆっくり話すなどの相手側の配慮，事前準備の有無など，実現のための条件。話題・場面：日常的な話題，会議の場など，取り上げられる話題や，言語活動が行われる場面。対象：手紙や記事，ニュースや講義など，聞いたり，読んだり，話したり，書いたりするもの。行動：聞いて理解する，読んで理解する，話す，書く，会話するなど，実際の言語活動」(独立行政法人国際交流基金，2010b，p.13)。
- (6) 本稿における「言語能力」は、独立行政法人国際交流基金(2010a)が次のように規定する「コミュニケーション言語能力」に対応している。「木の根として表現され，言語によるコミュニケーションを支えるものです。言語能力は次の3つで構成されています。語彙，文法，発音，文字，表記などに関する『言語構造的能力』「相手との関係や場面に応じて適切に言語を使う『社会言語能力』「ことばを組み立てたり，役割や目的を理解する『語用能力』」(p.9)。
- (7) 引用したPDCAシートの記述内容は学生が書いた原文のままである。ただし，誤字脱字等，一部に修正を加えた。

## 参考文献

- (1) 小高葉子・黒田史彦・坂田麗子・武一美・古屋憲章(2010)「学習支援システムの設計とポートフォリオ」早稲田大学日本語教育研究センター一般研究(2009年度重点研究)研究代表者 細川英雄『日本語センター及び日研におけるポートフォリオ実施のための理論と実践』早稲田大学大学院日本語教育研究科，pp.32-43.
- (2) 黒田史彦・古賀和恵・坂田麗子・武一美・古屋憲章・柳田直美・相浦裕希・山本由紀子・横山愛子(2011)「日本語学習ポートフォリオの構築に向けて—日本語学習ポートフォリオ運用活動プロジェクト報告—」早稲田大学日本語教育研究センター一般研究(2010年度重点研究)研究代表者 細川英雄『日本語センター及び日研におけるポートフォリオ実施のための理論と実践』早稲田大学大学院日本語教育研究科，pp.5-58.
- (3) 独立行政法人国際交流基金(2010a)『J F 日本語教育スタンダード 2010』独立行政法人国際交流基金
- (4) 独立行政法人国際交流基金(2010b)『J F 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック』独立行政法人国際交流基金